



馬の学校

馬の学校通信

2006. 6 vol.22

発行 馬の学校

事務局 〒560-0084 大阪府豊中市新千里南町 3-27-26 TEL/FAX : 06-6832-8455

E-mail : mine@dp.u-netsurf.ne.jp ホームページ : http://www.horseschool.org



夏のプログラム 参加者募集!!

ファミリープログラム (日帰り)

日程 : 7月1日(土) ホーストレッキングわち

対象 : 幼・小・中・高校生のお子さんとそのご家族 (定員3家族)

参加費 : 1家族 ¥15,000 (現地集合・解散) / 1回

別途 食費 1人 ¥500

*雨により中止となった前回にお申し込みいただいたご家族を優先させていただきます

馬とのふれあいプログラム (約2時間)

日程 : 7月23日(日) 午前10~12時 服部緑地乗馬センター

対象 : 小学1年生~高校3年生 (定員4名)

参加費 : 1人 ¥8,000 (現地集合・解散) / 1回

ウマキャンプ (3泊4日)

日程 : 8月1日(火)~8月4日(金) 山梨・小須田牧場

対象 : 小学4年生~高校3年生 (定員6名)

参加費 : ¥41,000 (現地集合・解散)

*大阪集合解散の場合、小学生 ¥50,000 中学生以上 ¥55,000

★お申し込みは、会員の皆さまは6月3日(土)から、
一般の方は5日(月)から、電話・FAXで事務局まで!

春のプログラム 活動報告

ウマキャンプ (3/25~28)



木を使って、馬を作りました みんなで記念撮影です

馬とのふれあいプログラム

(3/12・4/15・5/14)



きれいにしてあげようね。 「口はどうなっているのかな?」

ファミリープログラム (4/22)



のぞいているのは、誰?

「ミント、こっちだよ」

馬と友達になろう (5/3~5)



お母さんと一緒に

手を離しても大丈夫!

「ウマコンテスト」作品募集中!

①作文 400字以上 2000字以下 (原稿用紙に手書きかワープロ)

②絵 B4以内の大きさの画用紙を使用・画材は自由

③写真 サービス判 (デジタル写真も可)

対象 : 子どもから大人まで、どなたでも

賞品 : 応募者全員に、記念品を、
優秀賞、ユニーク賞として、馬グッズをプレゼント

応募先 : 馬の学校事務局

(作品タイトル、住所・氏名・年齢・電話番号を明記)

締切り : 2006年9月30日 結果発表 : 11月上旬

*応募作品は返却いたしません*応募作品の著作権は馬の学校に帰属します



2005年度会計報告

収入	(円)
2004年度繰り越し	44,175
年会費・賛助会費	115,000
プログラム収入他	1,103,670
合計	1,262,845
支出	(円)
通信費	66,110
消耗品費	90,725
プログラム費	1,020,692
その他	31,348
合計	1,208,875

おすすめの本

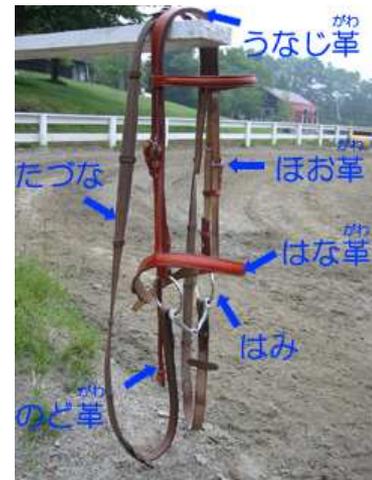
『ドリームファーム物語 ペガサスの翼』(上・中・下)
 倉橋耀子/作 佐竹美保/絵 講談社 青い鳥文庫
 風早理央、小学5年生。自分でも原因がわからないまま学校にいけなくなってしまった理央は、傷ついた馬に出会った牧場で仕事を手伝うことになります。馬たちの世話はたいへんですが、自然とふれあい、カ丸・蘭丸兄弟にはげまされながら、ペガサスとの絆を深めていきます。
 理央はペガサスを自分に重ね合わせることで自分自身を見つめなおし、また、ペガサスも人間への信頼を取り戻していきます。



おうまの教室 馬の道具 その4 頭絡(とうらく)



馬の口にかませた馬銜を、外れないように固定するための道具を頭絡といます。耳で支えた左右のほお革で、馬銜の位置を固定します。それぞれの馬銜の両端には手綱がついています。馬に乗ったら、手綱を通して、馬に指示を伝えます。また、馬銜を固定しない頭絡は、無口頭絡(省略して無口ともいう)と呼ばれます。



編集後記

やっと春らしくなってきたと思ったら、梅雨のはしり・・・不安定な気候が続いています。そんな中、GWに高知県の国立室戸青少年自然の家で行った「馬と友達になろう」は、3日ともお天気に恵まれ、楽しく過ごすことができました。プログラムの中でも最短の1時間で、ウマクイズ、ブラシがけ、乗馬、にんじんあげを行いました。最初は怖いので小さい方のポニーに乗ると言っていた子が、最後には大きなポニーに乗って手を振っていたり、おそろおそろ馬の口元に手を出していた子が、あちこちから草を集めてきて、ポニーたちにあげていたり・・・1時間という限られた時間の中でも、子どもたちは学び、変わる力を持っていることを実感しましたし、馬を介してそのお手伝いができることをとても嬉しく思いました。そして食堂で「あっ、馬の先生や～」と駆け寄ってきて、いろいろな話を聞かせてくれる、そんな関係ができたことも大きな収穫のひとつでした。

(峯崎 友香理)